

大分県視能訓練士会 第24回勉強会 アンケート

講演に対する質問と回答

質問①

訓練を行う意識の高さとして「本人に意欲があり」とありましたが、下限の6歳後半や8歳程度の子どもに訓練を行うとなったとき、子どもが斜視という状態を認識し、それをなんとかしたいというような意思表示をはっきりしてくれるか、私の経験がないのでわかりかねますので、その場合を親御さんへの説明と同意を重視することも必要となるかと思います。

本人に意欲や理解がなく、親御さんは子どもに訓練をしてほしいという状況では、どのように対応していけばよいのでしょうか？

富山氏の回答

2023年の勉強会で提示した症例は6歳6か月の男児（小1）で、1か月前に発症した近方視での複視を主訴に受診されたのですが、複視の訴えが強く本人にやる気があったため輻湊訓練を開始しました。しかしながら、自覚症状の改善と共に検査中もおしゃべりばかりするようになったため、継続は難しいと判断し、訓練終了時の目標を近見時の複視の消失と輻湊近点10cm以内までとしました。自覚症状の改善は大人でも家庭訓練の回数を自己判断で減らしてしまうし、おしゃべりは親しくなった副作用と思うので、年齢的に仕方がないことだと思っての中止判断ですが、本人に意欲があってもこのような展開になることがあります。

親御さんの気持ちも分かりますが、低年齢であっても小学生以上であれば少なくとも本人の意欲と理解力の両方がないと難しいと思います。理解力があっても意欲のない子が親御さんの希望で開始したとしても、訓練は家庭での反復がメインになりますので指示通り出来ないと結果が伴いません。年齢が上がると友達からの指摘で見た目を気にしたり、受験前に複視を苦にして訓練を希望した子もいますので、本人が希望するまで待たれてはとお話されてはどうでしょうか。

また小学生未満の場合、遮閉法の適応であれば提案されてもいいと思いますが、講演でお話させていただきました通り、遮閉治療は2年以上の長期にわたることもありますので、保護者に十分説明し、理解と承諾を得てからの開始が必要です。

抑制がなければ、遊びの一環としてビーズ通しをされるといいと思います。（指導の時点で意外と楽しんでやってくれます。）ちなみに一緒に働かせていただいたことがある斜視弱視を専門で診ている医師は、ブロックなど立体的に見える遊びを取り入れるといいと親御さんに説明していました。

質問②

prism convergence で融像性輻湊幅を測る際に、当院ではバープリズムが一本しかないため両眼同時にバープリズムを置くことができません。その場合は一本のみで行ってもよいでしょうか？

またその時は健眼と斜視眼のどちらにバープリズムを置くことが望ましいでしょうか？

富山氏の回答

両眼視にて本来は2本が best ですが、1本のみの施設も多いと思います。1本でも可能ですので、固視眼でしっかり目標物を見せながら、バープリズムは斜視眼に当てて実施してください。